平成２７年度　第１回滋賀県公立大学法人評価委員会開催結果（概要）

日　時　　平成２７年６月１９日（金）
　　１４時００分～１６時１０分
場　所　　滋賀県立大学管理棟３階　教授会室

【出 席 委 員】　郷委員（委員長）、磯田委員、奥田委員、古川委員

【事　務　局】　東村総務課長、他関係職員
【県 立 大 学】　大田理事長（学長）、川口副理事長、廣川理事、濱﨑理事、倉茂理事
　　増田学部長（代理　伴学科長）、山根学部長、面矢学部長、甘佐学部長
　　木村事務局次長、他関係職員

１．開会

〇東村総務課長あいさつ
〇委員、大学および事務局の出席者紹介
〇委員会の進め方について
　・委員会の進め方について、事務局から説明

２．滋賀県立大学の概要説明

〇大田理事長から滋賀県立大学の概要説明

３．学内調査（視察）

〇授業見学、教育研究活動の視察

４．質疑応答

（委員長）皆様、お疲れ様でした。非常にユニークな授業を見学させていただき、また学生との意見交換では質問することができ、貴重な機会となりうれしく思っております。これから約３０分間は、質疑・意見交換を行いたいと思います。学内をご覧いただきまして、ご感想やご質問がございましたら、自由にご発言いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（委員長）「電子システム工学セミナー」では女子学生は４名、「基礎看護技術Ⅲ」では逆に女子学生が多く、男子学生が４、５名ほどだったと思いますが、どちらも男女の構成比が異なるけれども、それを問題とすることなく自然な形で勉強をされているように感じました。昔は女性が少ないと女性が縮こまっていることもありましたが、そんなこともなく自然な形で勉強されていることが印象に残っています。

（委員）昨年、学生や地域の方のニーズに応えて大学敷地内に開店された、コンビニエンスストアの

評判はいかがでしょうか。

（大学）私も利用していますが、車も停まっていますし、評判もまあまあではないかと思っております。

土地の賃借料収入を大学院後期課程の奨学金として活用しています。後期課程の特に工学部研究科は入学者が少なく、呼び水としたいと考えています。

（委員）ある国立大学には素敵なレストランがいくつもあり、地域の方もうまく活用されていると聞いています。県立大学もこれだけ素敵な環境なので、大学と地域の交流の形はいろいろありますが、地域の方が過ごせるような場所の一つになればと思います。これだけの環境を学生と教員だけで独り占めしているのはもったいない。

（大学）留学から帰ってきた学生たちが何を学んだか、これから何を学んでいこうとしているのかを教育担当理事から説明していただきます。

（大学）留学から帰ってきた感想として「自分が日本のことを知らないことがわかって、悔しかった。言葉ができるようになっても、日本のことを聞かれて説明ができなかった。もっと日本のことを勉強していけばよかった。」と言った学生がいます。これはチャンスで、今から勉強して、次回海外へ行ったときに説明してくれることで懸け橋になれます。良い種を持って帰ってきてくれたと思います。

（委員）県立大学がアカデミックで自然環境に恵まれた大学だと改めて感じました。この大学が世間にどれだけ認知されているかと思い、東洋経済新報社が出している「大学四季報」を見てみますと、積極的な公立大学はランキング等に名前が挙がっていますが、県立大学の名前は載っていません。受験雑誌だけでなく、こういった雑誌に載ることでも認知度があがると思います。この雑誌に載っている県立大学の就職率が６８．６％となっていますが、もっと高いと伺っていますし、見る人は見ていますし間違いであればハンデになってしまうと思います。

（大学）昨年度の就職率は９６．８％でして毎年度このくらいで推移しており、全国平均より少し高くなっています。何かの間違いではないかと思いますので、早速確認いたします。

（委員）海外から日本へ来る留学生の目的はどういったものですか。

（大学）本学で受け入れている留学生は様々なタイプがいますが、短期留学生は日本語の習得が主な目的です。交換留学で来ている長期の留学生は日本文化もしくはアジア文化を学びに来ています。唯一例外はスペインのセビーリャ大学で建築の交換留学生と決まっていますが、非常に日本の木造建築に興味を持っています。また私費留学生は一般の日本人学生と同じ教育を受けています。

（委員長）公立大学の中で建築を学べる大学は少ないのではないでしょうか。キャンパスの建築と同時

に、学べる学科があり、海外からも建築を学びに来ている留学生がいるということは非常にアピールできる特徴ではないかと思います。

（大学）公立大学では少ないと思います。本学の場合は前身の短期大学にありましたので、今の形になっています。公立大学というのは新しいニーズですのでデザイン系の学科は非常に多いです。本学でも生活デザイン学科がございまして、こちらは家政学科が前身となっています。建築と家政の両方のデザインがあり非常にユニークな構成となっています。

（委員長）確かに小規模の大学としてはユニークだと思います。県内からの入学者が多いという話でしたが、デザインという意味では全国的に「滋賀県立大学だ」という人がいてもいいのではないかと思います。

（大学）環境という言葉を冠しており、環境に調和的な建築となります。木や竹などの素材にこだわったデザインは評価されています。

（委員）県の教育委員会でも話をさせてもらっていますが、高校生のインターンシップが短すぎるという話が出ている。大学でも学生がいろんな業種の企業と交流できるのはインターンシップだと思っています。

（大学）インターンシップは受け入れる企業の負担にもなっていると思います。もう少し長い期間できるようにしていきたいと考えています。

（委員）企業としては期間が短いのは嫌がります。短いと座学で終わってしまい、役に立つ仕事をしてもらえない。

（大学）企業からは学生の仕事に対する姿勢ができていないという意見もあり、送り出す側としてそのあたりのプログラムも作る必要があると考えています。

（委員）ちゃんとした仕事をしてお金を稼ぐことを体験することが重要だと考えています。

（委員長）公立大学は規模が小さいので国立大学よりもユニークな取り組みをされていると今日改めて実感いたしました。

（大学）各学部長に集まっていただいていますので、県立大学の中にあって学部の目指しているところなどを話させていただいてよろしいでしょうか。

（委員長）ぜひお願いします。

（大学）人間看護学部長の甘佐です。２０２０年問題や高齢社会にむけてカリキュラムを改正しました。これからますます在宅での介護や看取りが必要になってきますので、そういったことを取

り入れたカリキュラムとしています。助産課程の大学院化を視野に入れ検討している最中です。

（大学）人間文化学部長の面矢です。先ほどデザインの話が出ましたけれども、建築は全国的に苦慮している「まちづくり」に重要な技術になります。建築も生活デザインもそういった地方をどうするかというところに最初から手をつけていますので、まだ大きな成果は上がっていませんが、その方向で進んでいくと思います。人間文化学部は５学科ありますが、こちらも地方志向が徹底しており、今後もこの方向でいくのではないかと思っております。

（大学）工学部長の山根です。授業では基礎学力をしっかりつけるとともに、実験実習系の授業を充実させています。先ほど女子学生の話がありましたが、いずれの学科も女子学生は少ないですが、非常に積極的で優秀です。女子高校生にいかに工学部に入ってもらうかをオープンキャンパス等で取り組んでいます。

（大学）環境科学部長の代理、伴でございます。環境と調和したというところを担う重要な学部と考えております。地域と環境に配慮した人間の活動とはどのようなものかを研究教育しております。本学部が日本で最初につくられた環境科学部ですが、現在はいろいろなところにあります。一つの岐路に立たされていることは学部でも承知しており、次の段階への方向を探しているところでございます。授業ではフィールドワークを重視しており、実際環境問題がどこで起こっているのかを見せるということに重点を置いています。

（委員長）まだまだあろうかと思いますが、本日はこの辺で終わらせていただきたいと思います。次回以降の委員会でも質疑の時間を予定していますので、その際にお願い致します。

５．閉会

〇事務局から第２回委員会についての連絡